

活力を生むまちづくり

未来  
宣言

現在

# 新たなひかりを育む まちの活力

「食」づくりは「人」づくり 「人」づくりは「まち」づくり  
光市の里と海から生まれる  
新たな第六次産業創造プロジェクト



## 農業振興拠点施設 「里の厨」くりや

**笑**

顔を生み出す、光市農業  
振興拠点施設「里の厨」。

地場産農林水産物の加工・販売に  
よる地産地消の推進、経営基盤の  
整備や後継者の確保対策、地元食  
材を見つめ直すことによる食農教  
育の促進や観光振興の強化など、  
様々な視点を有機的に結びつけた  
第六次産業化から「新たな価値」を  
創出し、活力と賑わいに満ちた地  
域社会の実現を目指しています。

## 「農」でつながる

### 人の輪

**里**

の厨は、市内外から年間約  
25万人に利用されていま

す。当施設では、新鮮でおいしい農  
産物や地場産にこだわった特製弁  
当、生産者自慢の加工品を販売し  
ているほか、種まきから収穫までを  
地元農家と体験できる農業体験を  
行っています。さらには、地場産農産  
物を使った豆腐づくりやそば打ち  
体験など、地産地消を楽しく学べる  
体験型イベントを開催しています。  
つくり手の「真心」と食べる人の  
「喜び」、お互いの感謝の心をつな  
げ、そこから生まれる「輪」は、人に  
笑顔をもたらし、まちに活力を生み出し  
ています。



# ニューファーマー&ニューフィッシャー

産業がもたらす地域活性化を目的に光市が取り組む、新規農業・漁業就業者への研修制度。経験ゼロでも現場で活躍できる人材の育成を支援し、「自分たちが光市の第一次産業を支える」という熱い思いを胸に奮闘する「人財」を生み出している。



「やりたい事がありすぎて、年をとる暇がない」と語るお二人。商品のロゴやポップは全て真奈美さんの手作り。



平成25年就労  
ニューファーマー  
イチジク農家

**豊** かな自然の中、ロハス生活を満喫する出穂さん夫妻。

もともと農業が好きで、家庭菜園をしていた大治さんは、ふと目にした農家募集のCMがきっかけで本格的に農家を目指すことを決意。山口県立農業大 学校、農事組合法人つかりでの研修を経て、光市へ移住しました。

「生で食べるイチジクも最高ですが、今後はイチジクを使ったジェラートや乾燥イチジクなど、加工品にもチャレンジしていきます」と笑顔で夢を語る夫妻と、後ろで無邪気に遊ぶ子どもたちの笑顔を、夏の太陽が明るく照らします。



平成23年就労  
ニューファーマー  
農家

麻野さんの今後の目標は、ブドウの本格的な栽培。「自然は仲間であり、ライバルですね。負けないように頑張ります」と語ってくれた。

## 緑 麻野将也さん

区で農業を営む麻野さん。生まれ育ちも光市で、幼い頃から自然と触れ合い育つ中で、農家を目指すことを決意。その頃、市では農家の後継者不足が問題になっていることに対し、就農支援の取り組みを実施。麻野さんを農事組合法人つかりの職員として迎えました。

「野菜は本当に正直者。怠けたらそのまま形に現れ、頑張ったらその分返してくれる。本当に可愛いです」と、まるでわが子のように野菜と接する若き農家のまぶしい汗が、笑顔を三層輝かせています。

## 漁 國永大輔さん

### 漁

師を育成し、豊かな海を守るために「新規漁業就業者確保育成推進事業」に取り組んでいる光市。2年間かけてじっくり技術を身に付け、新たに漁師の仲間入りをした國永さん。

「漁師になるのが夢だった」と語る國永さんは、福岡県出身で、漁業就業者フエアで光市と出会い、本格的に漁師の道を進みます。「夢は光市の海の良さをもっとPRすること。素晴らしい自然に感謝しながら、これからも、ともに生きていきたいですね」と、日焼けした顔で力強く語ってくれました。



平成25年就労  
ニューフィッシャー  
漁師

國永さん(右)と、同じく漁師の福本さん(左)。「今後はより品質・鮮度の高い魚を提供したいですね」と笑顔で語ってくれた。

